

2018
おもろ
チャレンジ

現代を生きるエーゲ海の民族舞踊

zeibekiko と zeybek

総合人間学部 3年

阿部 由奈

ギリシャ、トルコ

2018年8月15日-

2018年9月14日



渡航概要と内容

<日程と概要>

この渡航ではギリシャの zeibekiko およびトルコの zeybek の調査のためにギリシャ、トルコに滞在した。

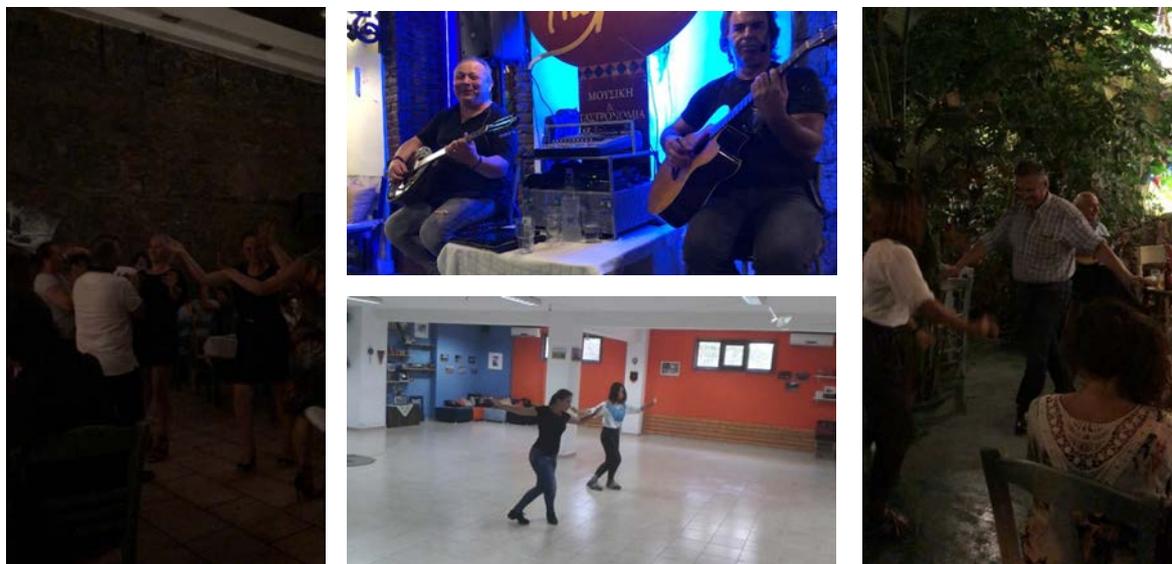
・8月15日～8月19日 (Istanbul [イスタンブール]、Tuzla [トゥズラ] /トルコ)

トゥズラでギリシャダンススクールを運営する Kaan Temizel さんに会い、インタビューの実施、レッスンの受講、greek night というイベントに参加する。また住民交換の博物館に行く。



・ 8月20日～8月23日 (Θεσσαλονίκη [テッサロニキ] /ギリシャ)

Katerina Karatsa さんに会い、レッスンの受講、インタビューの実施をした。Ladadika 地区においてタベルナ（大衆食堂）で行われている生演奏を見に行き、映像の撮影し踊る。



・ 8月23日～8月25日 (Αθήνα [アテネ]、Πειραιάς [ピレウス] /ギリシャ)

単独では危険と判断し、ドミトリーで知り合った女性とオーナーの紹介してくれたプシリ地区のタベルナに行く。生演奏と一般市民の踊りの映像を撮影する。

外港、ピレウスでナイトクラブを発見し撮影する。

・ 8月25日～8月31日 (Ικαρία [イカリア] /ギリシャ)

Μάραθο [マラソ] 村で行われた Πανηγύρι [パニギリ/祭り] に参加した。また Κάτω Πάχες [カトラヘス] で行われていたダンスの夏期講習のイベントに参加する。

現地のダンス講師 Sofi Sokaki さんと Chrysha Foti さんと連絡を取り、調査に協力してもらう。

・ 8月31日～9月1日 (Σάμος [サモス] /ギリシャ)

トルコ上陸の経由地として一泊する。

・ 9月1日～9月9日 (Aydın [アイドウン] /トルコ)

Aycan Yılmaz さん、ダンス講師の Efe Başdemir さん、Selim Ozyol さんの協力のもと、レッスンの受講、Tire 村でのインタビューと映像の撮影、著名な民族楽器演奏家の Doğan Zentur さん、Tibet Var さん、Baris Kop さんへのインタビュー、Aydın [アイドウン] の独立記念日のパフォーマンス映像の撮影を行う。





・9月10日～9月12日（Izmir [イズミール]、Bergama [ベルガマ] /トルコ）
Izmir [イズミール] でコスチュームメイカー、Atilla Özkan さんにインタビューをする。

Bergama [ベルガマ] でダンス講師、Hasan Türken さんに会いレッスンの受講、インタビューの実施をする。



・9月12日～9月14日（Istanbul [イスタンブール] /トルコ）
İstanbul Belediye Konservatuarı の Cumhuriyet Sevinç さんにインタビューをし、文献や音源を入手する。Fusun Çakır さんにヘナナイトに連れて行ってもらい、映像を撮影し踊った。

現地の人とのコネクションがなかったため、同大学に所属する Yalçın Pısl さんに Facebook を介し、ボランティアを募集、紹介をしていただいた。

現地語ができなかったためにコミュニケーションに問題があった。トルコでは特にテキストメッセージよりも電話を好



むことから困難が生じた。また特に観光地以外では情報が現地語でしか手に入れられない場合があった。現地の英語が話せる人に通訳、翻訳、情報提供において多大なご協力をいただいた。また Google 翻訳によってコミュニケーションをとることができた。

歴史的に異なる民族によって支配されてきた地域のため、地名が国によって異なる場合があり、チケットの購入がスムーズに行かなかった。

祭日とかぶると公共交通機関や宿の予約が難しいことがあった。またバカンスのシーズンであったため旅行に出ており協力を得られなかったことが多くあった。

トルコは男女の嫉妬心が比較的強い。筆者が女性でダンスの講師が男性であったためその彼女が同伴したが、飲み明かしているときに男女の修羅場に巻き込まれた。google 翻訳による会話や仲良くしようという姿勢を見せることにより、彼女とも友好的な関係を築くことができた。

また食べ物を勧められた時に断りきれずに食べて胃を痛めた。丁寧に断るのは失礼に当たらないと考え実行した。



<調査結果>

I エーゲ海沿いの文化的土壌

エーゲ海沿いの地域は、古来より多くの民族の移動の多い地域であった。テッサロニキ、カバラ、サンティ、コモティニ、エディルネにかけてはギリシャ、マケドニア、ブルガリア、トルコの民族の混在するトラキア地方と呼ばれる地域である。それぞれの民族や土地に特徴があるが、9拍子のリズム、楽器、和音に多く共通点が認められる。

また入植、支配、征服の関係による人々の集団移住も多くあった。例としては古代ギリシャのイオニア人による現在のトルコのエーゲ海沿いの都市の建設、ポントスへの入植、オスマン帝国によるテッサロニキやクレタ島などの島々の征服とその支配に伴う人の移動によって一つの村や都市に多数の民族が住んでいた。

その村、都市では各民族が分業して住んでおり、その関係は良好であったとされている。例えばトルコ人は兵士と農民、ギリシャは布屋と商売、アルメニア人は石の家づくりや金属加工に秀でていた。人々のルーツは互いに異なっている。そして村では互いに分かれて住んでいたため文化や習慣は共有されなかったというが、都市ではかなり交わっていたと推測される。イズミルやイスタンブール、またアテネといった都市には Cafe aman と呼ばれるカフェがあり、そこではオスマン、トルコに影響された音楽が演奏されていた。1900年代ごろのイズミルやベルガマでは曲には、トルコ語とギリシャ語の両方で収録された同一の曲が見つけることができる。

そしてオスマン帝国の衰退と第一次世界大戦によって国境と民族を一致させようという動きが高まった。ギリシャ独立に乗じたスミルナ（現イズミル）への侵攻とそれに反撃したケマル・アタトゥルク率いるトルコ軍の反撃によって、その地域に住んでいたギリシャ人はギリシャ本土に逃亡した。また住民交換によって人々はイスラム教、ギリシャ正教といった宗教によって民族が決定され、国境と同じように分けられた。

トルコではイスタンブール、トゥズラといった港が使われ、そのような人々は Mübadele と呼ばれる。そしてギリシャ側ではピレウスやテッサロニキにそのような人々が流れ込んだ。その後にはアテネのプラカ地区やテッサロニキでトルコの影響を強く受けた rebetiko という大衆音楽が生まれることになる。

このようにギリシャ/トルコの文化というよりは、民族の混在する中で創り上げられたエーゲ海地域の文化である。

II zeybek と踊り

zeybek とは現在トルコで踊られている民族舞踊の名称であり、またギリシャで踊られている zeibekiko の由来である。

しかし元々の zeybek という言葉は特定のエスニシティを指す言葉ではなく、現在のエーゲ海沿いのトルコ地域にいたギャングを指すものである。この集団はオスマン帝国下の 17 世紀ごろから形成され始めた。

トルコの zeybek に koca Arap というものがあるが、それは afro zeybek、黒人の zeybek の名前から取られたものであるとされている。イズミル県ティレ村には奴隷市場があったため、トルコ化する黒人がいたのだ。

zeibekiko の歴史においては、トラキアからこの地域に移り住んできて武装集団として活発だった人々は zeibekides と呼ばれていたとされている。この人々はオスマン帝国のによって圧力が加えられながらも習慣や服装といった文化を保持していた。この人々は警官としてトルコ人によって雇われていたという。しかし 1833 年にはスルタンアフメットと戦うなど、弾圧された。

トルコの踊り、zeybek は山の村に住んでいた機動力の高い傭兵集団の踊りであると言われていた。彼ら、zeybek のリーダー Efe は 1900 年代のイズミル、アイドゥンでのギリシャ軍に対するトルコ軍の反撃において、ケマル・アタトゥルクに協力して戦った英雄として人々の人気を集めている。

ギリシャの zeibekiko は 1884 年に刑務所で踊られたのが最初とされている。1900 年頃にはスミルナ（現イズミル）で貧困層の踊りとして踊られていた。そして 1923 年の住民交換後にギリシャ本土で rebetiko とともに広く知られるようになった。rebetiko とはトルコの影響を強く受けたギリシャ音楽であり、国から禁止され差別を受けつつもその後大衆音楽として広まった音楽である。zeibekiko の由来は一説によると古代ギリシャのゼウスとパンを表す言葉である。また紙に捧げた戦の踊り、Pyrrhichios に原型があるとも言われる。またヘレニズム期のディオニソスの祭りに由来するとも言われている。

III この地域において近似する踊り

スミルナ（現イズミル）やレスボス、サモス、コザニ、キプロスで見られるギリシャの民族舞踊に aptaliko というものがある。これは aptaliko zeibekiko/aptal havası と呼ばれることもある、同じ型を持つ踊りである。

また Kordon zeybek と呼ばれるイズミルの zeybek は aptaliko と似ているが、 aptaliko/aptal Havasi/Kordon zeybek が同一の曲として存在している。

そしてキプロスとレスボス島では Abdal zeybek が踊られるが、これらの zeybek もまた近似した踊りである。

音楽以外の点では、ベルガマに収蔵されていたベルガマの衣装とレスボス島の衣装はほぼ同一のものである。

以上のように、zeybek と zeibekiko などのグループに属する踊りはかつてのイズミル、ベルガマとレスボス島をはじめとするトルコに近接する島、キプロスで多様な種類の踊りとして見つけることができた。

このグループの踊りの共通点は 9/4 または 9/8 拍子で踊られることである。zeibekiko は 9/4、 aptaliko は 9/8 拍子で踊られる。 abdal zeybek は 9/8 拍子で踊られる。そして zeybek は 9/4 または 9/8 拍子で踊られる。

踊りのフィギュアとしては両手をあげて踊るところが共通している。異なる点としてはトルコの踊りはズルナという民族楽器が使われるのに対してギリシャでは弦楽器を用いる。またトルコではしゃがむフィギュアが多いのに対してギリシャでは歩くフィギュアが多いほか、跳びながら足の側面を叩く。

IV 現在のトルコとギリシャにおける民族舞踊に関して

トルコでは前述の通り、1900 年代のイズミル、アイトウンでのギリシャ軍に対するトルコ軍の反撃において、ケマル・アタトゥルクに協力して戦った英雄として人々の人気を集めている。独立祭のパフォーマンスで踊られていたり、各村や町に博物館や銅像があり、ナショナリズムの一部をなしている。また古くに村で踊られた「オリジナル」と舞台映え、もしくは無知なインストラクターによる「モダン」といった認識に分けられる。zeybek の大会があったり、harmandali と呼ばれるものは全国区に広まっていて、「トルコ」に属するものとして扱われている。またギリシャの zeibekiko、 aptaliko、島の zeybek に関しては、このエーゲ海地域の踊り、zeybek の一種であるという認識が大半であった。

トルコは多くの異なる文化が混在する国である。そのためイスタンブールには conservatory があり、民族舞踊、音楽の研究、教育が行われている。

トルコでは割礼の祝い、結婚式、ヘナナイト、徴兵の際に踊る。そのためミュージシャンやダンサーが市場を形成している。そこで踊られるのは çifteteli、Halay、Horon が主である。

また Mübadele と呼ばれるギリシャから来たトルコ人はギリシャの文化、音楽に親しみを持っており、その人々が多い Tuzla や Izmir といった場所でギリシャのダンススクールに通っている。このダンススクールを経営している講師の家族は、その祖父母の代にテッサロニキの北にあるキルクスから現在住む tuzla に移動してきた。その tuzla には住民交換の博物館があり、住民の寄贈した物品が展示されている。またかつてこの土地に住んでいたギリシャ人が訪れることが

ある。

ギリシャの zeibekiko は映画 Zorba で見られるように、近代ギリシャ男性のナショナリズムの象徴として扱われている。zeibekiko は愁訴の踊りであるため、結婚した女性が踊ると結婚への不満と捕らえられたため禁止された。女性が踊れるのは子供が死んだとき、寡婦になったとき、売春婦の場合であった。しかし現在では女性も踊ることができる。起源が古代ギリシャの踊りであるとされているほか、トルコの zeybek とは異なる踊りと強調されている。

夏は Panygiri という町の聖人を祝う祭で、冬は生演奏のあるタベルナやバーなどで踊るといふ。これらに参加するためにダンススクールに参加するが、最近若者の民族舞踊への関心は高まっているらしい。また zeibekiko はリズムに馴染みがあり親が踊っているのを見ているので「誰でも」一定以上は踊れるらしい。

それらの場所では tsifteteli、aptalikos、zeibekiko、hasaposerbiko が見られた。

イカリアは盛大に伝統的な民族舞踊を踊る祭、Panygiri で有名である。そこでは Ikarotikos、zeibekiko、aptalikos、syrtos、xaniotikos、pentozali、tsifteteli などが見られた。8月の観光化された panygiri においては島外の若者が島の伝統を無視して踊るため、そのような人々は grouvalos と呼ばれている。

両国で一番共通して見られた踊りがベリーダンスの一種である cifteteli/tsifteteli である。これも小アジアの難民がギリシャに伝えたものだとされている。古代ギリシャのダンスに由来し東ローマ帝国時代に中東、アラビアに伝わり今の形になったという説もある。

また両国の踊りで有名なのがポントス（黒海）の踊りである。これは現トルコ領の黒海付近に古代ギリシアの時代に来住した人々の踊りである。トルコ語ではギリシャ語で踊りを意味する χορός から派生し horon と呼ばれている。現在ではトルコの黒海地域と、黒海のギリシャ系難民の移動した地域で踊られる。この踊りはトルコのサムスンやアートヴィンなどでそれぞれの特徴的に踊られるが、ギリシャでは古代ギリシャの戦いの踊り、pyrrhichios として踊られ serra と読んでいる。youtube の検索すると、ポントス（黒海）の踊り、serra(トルコ語:siksara horon)が古代ギリシャの Pyrrhichios としてギリシャで踊られている。この曲は 7/16 拍子である。また同じ pyrrhichios に由来する踊りとしてクレタ島の pentozali がある。この曲は 2/4 拍子である。

V 総括と今後の課題

今回は「国境を横断する踊り」という仮説のもと行った zeibekiko の調査を行った。

しかし現地においてその伝統文化に携わる人々に話を聞き、また実際に自分自身が観察したことによってこのエーゲ海地域、小アジアの文化/民族、という全体/部分に対する視座が変化した。多様な民族が集住する場所において、どのようにお互いが文化を受容し混じり合っていたのか、また移動後の変容とナショナリズムに関係して現在の形になったのかというのがこの研究のテーマとなった。

現段階では、踊りを説明する際にトルコでは土地、場所に注目し、ギリシャでは誰の踊りなのかに注目するという違いがあることを発見した。これは両国のナショナリズムのあり方にも共通するものである。そして主に都市部で混ざり合った音楽と島にも分布する類似する踊りの関係についても調べたい。

また現地に行き伝統文化に長く携わる人々から、インターネットのキーワード検索ではたどり着けない多角的で枝葉的な情報を得ることができた。

現地で入手したトルコ語文献や、ギリシャの小アジアの研究機関、および zeybek や zeibekiko に近似する踊りからこの複雑に折り合う文化について調べることが今後の課題である。

■ 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

現地でその物事に携わる人間から情報を提供してもらい、そのコネクションを伝えて 予想よりはるかに多くの調査を行うことができた。1人の大学の友人、1人のダンス講師から広がるコネクションの強さとそれを提供してもらうことのありがたさを感じた。その点において facebook、whatsapp、Instagram を活用する機会が多かった。特にトルコのコネクションはフラックかつ密であった。

今回は「国境を横断する踊り」という仮説のもと行った zeibekiko の調査を行った。

しかし現地においてその伝統文化に携わる人々に話を聞き、また実際に自分自身が観察したことによってこのエーゲ海地域、小アジアの文化/近代以降の国境、という全体/部分に対する視座が変化した。この地域の多様かつ雑居していた文化の全体性を捉え、民族、国境、地域の文化というものへのこの地域の感覚を理解できたように思われる。歴史的、地理的背景によって民族、国、文化というものの捉え方は異なるという発見があった。

また現地に行き伝統文化に長く携わる人々から、インターネットのキーワード検索ではたどり着けない多角的で枝葉的な情報を得ることができた。

現地で入手したトルコ語文献や、ギリシャのマイナーアジアの研究機関から、この複雑に折り合う文化について調べることが今後の課題である。

■ 今回の経験をどのように今後生かしていくか

新しいフィールドに参入する際にはコネクション作りに重点をおき、そこから人を伝えて行くことによってうまくいきやすいことを経験した。そのためにインターネット、SNS など急速に人々の間に広まっているものを活用する

また現地に行って見てからの発見や機会を生かすため予定に余裕と柔軟性を持たせる。

人間関係には配慮が必要である。現地のルールをよく観察することが重要であることを念頭におく。また社会的に振る舞う。

また努めて自分の先入観を客体視しようと思った。

■ 今後本プログラムを希望する学生へのアドバイス

現地の人とコネクションを作ること。食べ物や申し出を断る力が必要。頑張りすぎず、ある程度は体力、気力の温存に務めること。

■ 主な奨学金の使途

*渡航費

*宿泊費

*雑費（食費、資料、通信費）

*交通費

*海外旅行保険 など